



昭和50年度 栃木県中学校長会
運営方針ならびに重点目標

○ 運営方針

会則第3条 本会の目的に則り、教育諸団体との連繋を密にし、本県中学校教育の振興充実を図るとともに、いつそ義務教育尊重の気風を高揚し、もつて教育栃木の建設に邁進する。

そのために

1. 会員相互の共通理解を深め、教育の正常な推進を図る。
2. 組織的な研修活動を活発にし目的達成に努める。
3. 教育関係諸機関諸団体との連絡を密にして、活動を展開する。

○ 重点目標

1. 会員の研修活動の推進
 - (1) 専門職にふさわしい組織的研修活動
 - ア 使命感の確立、深化
 - イ 学校経営の諸問題の研修
 - (2) 近代的な学校経営についての研修
(学校5日制に関する研究を含む)
 - (3) 関プロ大会の推進
2. 教職員の人材確保対策の推進
 - (1) 教職員の適正配置
 - (2) 教職員の待遇ならびに勤務条件の改善
 - (3) 教職員養成制度の改善
3. 義務教育尊重の気風の高揚
 - (1) 教職員の勤務意欲の高揚
 - (2) 教育予算の増額

- (3) 現行標準法の改善のための運動
- (4) 県単職員の増員
4. 生徒の福祉条件の充実促進
 - (1) 健全な校外活動推進のための施設・設備の拡充
 - (2) 生徒の体育活動充実のための補助金の増額
 - (3) 交通安全施策の改善充実
 - (4) 望ましい家庭教育の普及ならびにPTAとの協力
5. 公立高等学校増設の推進と入試制度の研究
6. 私立高校への県費補助の増額
7. 教育会館移転建設の促進

本会運営について

1. 県中学校長会総会(一条中学校) 5月10日(土)
2. 理事会・協議員会

①理事会・協議員会	4月17日(休)
②定期総会	5月10日(土)
③理事会・合同専門部会	6月3日(火)
④理事会・協議員会	10月7日(火)
⑤理事会・協議員会	1月23日(金)24日(土)
⑥理事会	2月28日(土)
3. 各専門部会 火
4. 全日本中学校長会総会(東京)
5月22日(木)~23日(金)
5. 全日中役員研修会(東京)
7月29日(火)~30日(水)
6. 第27回関東甲信越地区中学校長研究協議会栃木大会
6月19日(木)~21日(土)
7. 全日本中学校長会北海道大会
9月17日(木)~19日(土)
8. 義務教育振興大会 10月21日(火)予定

昭和49年度会務報告

期 日	場 所	会 議 名	要 項	参 加 者
49.4.16	宇 一条中	理事研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・新年度活動方針, 会務計画 ・48年度決算, 49年度予算 ・定期総会準備, 計画 ・全日中総会, 関プロ出席者確認等 	理 事 32名
49.4.23	宇 一条中	協議員研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・新年度活動方針, 会務計画等 ・48年度決算, 49年度予算案 ・定期総会準備, 計画 ・永年勤続者表彰について ・全日中総会, 関プロ出席者確認等 	理事, 協議員 48名
49.5.11 (土)	宇 一条中	定期総会	<ul style="list-style-type: none"> ・永年勤続者表彰 ・48年度事業, 決算報告 ・新役員選出 ・49年度事業計画, 予算案 ・関プロ担当議題の発表, 研究 (増淵益・篠原) 	全会員
49.5.24 (金) ~5.25(土)	東京 国立教 育会館	第25回 全日中 総会	<ul style="list-style-type: none"> ・京都大会研究題について ・49年度の運営活動方針等の協議 ・48年度決算, 49年度予算案 	代議員4名 オブザーバー 89名
49.6.4 (火)	宇 一条中	理事研修会 専門部会 合同会	<ul style="list-style-type: none"> ・重点目標の推進について ・専門部事業計画 ・関プロ栃木大会, 事前研究全体構想, 全日中 富山大会参加について ・義務教育振興対策について 	理事, 専門部員 66名
49.6.19 (水) 49.6.21(金)	藤沢市	関プロ中学校 長研究協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・会務報告, 予算, 決算, 各県状況報告 ・「豊かな人間の育成」に視点をおいての研 究(全体会・9分科会) 	49名
49.7.13	宇 一条中	理事研修会 (臨時)	<ul style="list-style-type: none"> ・関プロ栃木大会の計画について 	理事26名

期 日	場 所	会 議 名	要 項	参 加 者
49.8.20(日)	宇一条中	協議員研修会 (臨時)	<ul style="list-style-type: none"> ・関プロ栃木大会の組織, 構想について 	協議員45名
49.10.3(木)	宇 一条中	理事会協議員 合同研修	<ul style="list-style-type: none"> ・全日中大会, 関プロ栃木大会について (地区運営, 組織, 内容) ・義務教育振興大会について ・学校教育の間題点 ・いわゆる課外学習について ・専門部会報告 ・高校増設, 環境美化問題 	43名
49.1.1(水)	宇 栃木会館 大ホール	栃木県義務教 育振興大会	<ul style="list-style-type: none"> ・パネルディスカッション, 大会宣言等 ・記念講演 森山真弓氏 	会員全員参加
49.10.17 (水) 49.10.18 (金)	富山市	全日中 富山大会	<ul style="list-style-type: none"> ・「中学校教育の使命とその望ましいあり方」 ほか8分科会 ・全体協議会 	36名
50.1.17(金) 50.1.18(土)	藤原町	理事会, 協 議員会	<ul style="list-style-type: none"> ・各専門部活動状況報告 ・関プロ栃木大会について ・全日中総会, 北海道大会参加者について ・昭50年度の本会運営について (予算, 事業) 	理事, 協議員 26名
50.2.10(日)	宇 一条中	理事会 (臨時)	<ul style="list-style-type: none"> ・人確法に基づく第8次給与予算について ・中学生の全国大会参加について ・その他 	理 事 24名
50.3.7(金)	宇 一条中	理事研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・関プロ栃木大会について(講師その他) ・50年度の運営について(総会運営も) ・本会の事業報告, 会議計画 ・中学校長会報について 	理 事 28名

昭和49年度専門部活動

1 調査部

1 調査部会

昭49.6.4 於 宇一条中

2 活動状況

全日中調査部の調査に協力して本県教育の実態を明らかにし、県中学校長会ならびに各部の活動に対し資料を提供した。また、関プロ中学校長会栃木大会の各研究主題について研修部の研究活動に協力して調査活動を行なった。

3 調査内容

(1) 昭49.4.21 全日中調査

- ・中学校学校数・学級数・生徒数・教員数の増減状況
- ・昭49年度教育費(都道府県負担)
- ・教員平均給、初任給、教員1人当り旅費
- ・公立中学校の学級別教員定数、校長退職
- ・部活動調査、高校入試制度に関する調査

(2) 昭49.7.10 全日中調査

- ・教員の資質向上について
- ・過当持時数、担当教科免許外教科担当状況
- ・教育課程に関する調査(過時数等について)
- ・公立中学校校長令別人数別調査
- ・校長の待遇に関する調査
- ・校長・教頭選抜制度等調査
- ・小中学校教員の需給状況調査
- ・小中学校教員に対する都道府県教委異動方針
- ・学校給食に関する調査
- ・へき地の学校教育に関する調査
- ・特殊学級に関する調査

(3) 昭49.8 全日中調査

- ・学校5日制に関する調査(抽出校)

(4) 昭49.11.20 全日中調査

- ・教育実習生の実態調査

(5) 関プロ中学校長会栃木大会研究主題に関する

各地区研修部研究に協力して調査、資料収集(付記) 資料収集にあたって、栃木県教委、栃管協のご協力をいただきました。また、地区調査部員、各中学校のご協力に感謝します。

2 研究部

本年度は、本会の重点活動目標の実現を期し、関プロ栃木大会の準備を勘案し、各位の深い理解のもと、組織をあげての研修活動が展開された。(各地区研究活動は紙面の都合で省略)

昭49.4.26.6.4.於一条中

研究部活動組織決定。本県中学校教育の現状に立つ研究課題の設定を検討。

6.19.~21. 関プロ神奈川大会(藤沢市) 全員多数参加。全体司会塩入安三郎、同報告横田正及び進路対策分科会提案藤原俊雄各校長の活やくが目立つ。50年度大会栃木県に決定。

6.26.於一条中。栃木大会に焦点をあて、本部及び10ブロックに活動組織を変更。

7.11.7.31.8.8.9.17.全日中関プロ理事会と各都県校長会の意向をふまえ、「ひとりひとりが豊かに伸びる中学校教育」を視点とする研究協議会を設定し、分担研究をすすめる。

1.23. 中学校教育の方向について、全日中研究部長原田穰氏の講話をきく。

10.17.~18. 全日中富山大会。会員多数参加。関プロ代表として増淵益三校長の全体会菊地玄校長の分科会における提案などの活やくがあつた。

10.29.11.1. 調査項目及びアンケートについて検討しその作成にあたる。

11.7. 第2回研修部員の研修実施。講師、文部省教育課程審議委員、原田穰氏。アンケート調査県内及び関係都県に発送。

12.3.1.13.1.23.2.23.

調査事項の集計、分析、解釈及び提案論旨について相互に検討。大会誌編集方針、日程等を決定。

3.20.

大会誌原稿に基づき最終報告会を実施。

3.27.

大会誌原稿の整理及び編集事務打合わせ実施。

3 編集部

1. 6月4日 一条中学校において専門部会を開き次の通り役員、編集方針等を決定する。

(1) 部長 愛波 正雄(鹿沼東中)

副部長 高藤 常松(城山中)

金田 悟楼(田原中)

全日中編集部協力員 高藤 常松

(2) 昭和49年度 編集部方針

・ 会報は中学校長会の機関紙であるから、その趣旨に則つて編集する。

・ 会報の発行は年3回とする。

第1回 5月(栃中長運営方針、重点目標等)

第2回 9月(関プロ神奈川大会を中心に)

第3回 1月(全日中富山大会を中心に)

・ 発行部数は、350部とする。

・ 全日中の編集部活動に協力する。

2. 7月4日 一条中における第2回編集部会

(1) 第2回会報の発行内容について

・ 会長あいさつ、役員一覧と各専門部年間計画

・ 関プロ神奈川大会の参加報告(上都賀地区)

・ 地区校長会の動向(那北那南塩谷地区)

(2) 原稿不切7月末日(9月初旬発行) 予算は部長、副部長が事務局と交渉すること。

3. 11月28日 第3回編集部会(一条中)

(1) 第3回会報発行内容について

・ 全日中富山大会参加報告

・ 地区校長会の動向(足利秀賀栃木佐野地区)

・ 人権法貫徹総決起大会報告(宇都宮地区)

・ 関プロ栃木大会中間発表等について

会報発行年3回としても、第1回は総会資料会報で、実質的には年2回の発行となっている。しかし予算の裏付けもないのに、皆さんのご協力により計画通りの発行できたことを深謝したい。来年度もよろしくご援助願います。(編集部長愛波正雄)

4 職員対策部

本部会の活動状況は次の通りである。

1. 6月28日10時より星が丘中学校に於て、第1回の部会を開催。内容次の通り。

(1) 本部会の位置づけについて

(2) 年度内活動について立案検討

① 全日中給与対策部等の活動を委員に伝達。部会の意義についてPR。

② 共済保険証の終身利用権の獲得運動と推進について

③ 教員の優遇措置について

・ 過去と現在との優遇措置の検討

・ 永年勤続者の表彰

・ 結婚祝も出産祝もなかった時代の会員の優遇措置

④ 傷病補充(県担)時間講師採用 万要請

⑤ 無免許運転防止策

⑥ 校長の交際に関する調査(基準財政需要額の中には18学級を基準として9万円の交際費がくまれているが、県下都市でどれだけ交際費をもっている校長がいるか。)

2. 10月29日10時より星が丘中学校に於て第2回の部会を開催。内容次の通り。

(1) 校長交際費の予算化について48年度資料により話し合い。

(2) 管協との連絡事項について報告

(共済保険証、永年勤続者の優遇、傷病補充、無免許運転について)

(3) 人権法完全実施推進について

(4) 今後の活動について

3. 1月28日10時より星が丘中学校に於て、第3回の部会を開催。本年度の総まとめとして活動に対する反省と来年度の課題について話し合った。

5 進路対策部

昭和49年度第1回の部会の計画に基づき事務局で原案作成、昭和49年9月に県内の中学校教員を対象とする下記の調査を行なった。

栃木県公立高等学校入学選抜方法
ならびに公立高等学校設置に関する調査

- 1 学区制について
- 2 学区外入学許可の最大限
- 3 面接試験の賛否
- 4 体育実技導入の賛否
- 5 推薦入学導入の賛否
- 6 調査書における「学習評定」の内容
- 7 学力検査の教科数
- 8 公立高等学校を設置してもらいたい市町村名
- 9 県内全体をみて、今後設置を希望する学科

(普通校を除く)

回収は各地区(13ブロック)でなされ集計されそれを本部で全体集計した。総数約400名の教師の意向がまとめられたが、その結果の詳細はすでに各会員に印刷され報告されているので省略するがこの調査は入試の理想という意味でなく、現在の方法を少しでもよりよくしていくという視点があったが、その結果は今後活用される面が多いと思われる。

なお、「公立高校の増設について会長とともに県に要望。さらに昭和50年2月18日、県教育長あてに「公立高校の募集定員外合格承認」について要望した。これは、50年3月に実施される県立高校入学選抜における志願者の実数が発表された結果によれば19732名であり、全日制募集定員16140名に比べると約3600名が不合格となるわけであり、これに対する定員外合格を1学級当たり可能な限り合格者数を多くしてもらいたいということであった。

進路対策部の活動範囲は広く、かつ現下問題点が種々多く、昨年度はこの部がより計画的かつ組織的に研究を進め、究極には生徒の進路が適切になるよう期待します。

6 修学旅行部

昭和49年度の修学旅行は、各位のご協力により大過なくすこすことの出来ましたことを、心から感謝いたします。

昭和49年度部会の活動は次のとおりです。

- 1 6月第1回役員会
部会の予定と関東地区修学旅行委員会等の検討。
- 2 7月修学旅行部会総会。
事業報告、予算決算の検討、役員決定をみる。
- 3 8月関東地区修学旅行委員会。
各地区の情報等についての話し合いをする。
- 4 9月関東地区修学旅行委員会。
50年度の割り付け、関西研修旅行、諸調査の依頼等について話し合い。
- 5 10月事務局より近畿ツーリスト、交通公社に昭和49年度修学旅行反省、値上防止について申し入れをする。
- 6 緊急委員会(11月)
49年度の反省、50年度の実施、実態調査、研修旅行等について話し合い。
- 7 11月関東修学旅行委員会事務局、国鉄販売センターに緊急委員会の結果について要望をする。
- 8 12月関東地区修学旅行委員会に出席、昭和51年度の問題を検討する。
- 9 59年1月3日地区修学旅行委員会に出席、関東近畿の修学旅行の列車、今後の旅行のあり方について話し合いをする。
- 10 50年2月、50年度のつなぎ列車について問題がでたので、宇都宮駅陳情、国鉄販売センター、事務局(関修委)に陳情、要望をする。
- 11 50年3月、本部事務局ならびに各地区委員、中学校長会の要望等をもち、再陳情、要望をする。その結果、国鉄より本県に出席、説明をすることを約束させる。
- 12 50年3月、栃木県各中学校に連絡。各校から先生方の出席をもとめ、つなぎ列車について充分国鉄側と話し合っていた。〔結果については各業者より各学校に連絡の予定〕

7 福利厚生部

昭和49年度部会の活動を次のとおり報告します。

- 1 6月4日部会開催 役員選出、本年度の事業ならびに予算・決算の審議を行なう。
- 2 8月17・18日に鬼怒川において、金港堂社長編集課長を招き、生徒手帳の編集を行なう。
- 3 9月11日従来の交通安全副読本に代わり、交通だけでなく、日常生活における広い意味の安全教育のための副読本の編集に着手。第1回の会議を開催し、資料の審査・整理・採用を決定する。
- 4 10月29日安全教育読本編集の第2回部会を開催。原稿の校正を分担に基づき実施し、10日後印刷にまわす。東京書籍より部長・係が来校栃木県版として発行することに決定。
- 5 12月より、生徒手帳(全港堂)・安全副読本(東京書籍)・道徳副読本(栃木県版文教社刊)の購入についてあつせんする。
以上三点の書籍はいずれも、栃木県中学校長会が発行者になっておりますので、多数ご採用下さるようお願いいたします。

昭和50年度 栃木県中学校長会役員案

(協議員会推薦案 除理事、協議員)

会長	廻谷三郎	宇陽北中
副会長	大木義雄	栃吹上中
"	大谷晃一	河古里中
"	塚原公一	塩氏家中
"	小池元正	宇陽南中
監事	園井未子男	足協和中
"	綱川水雄	芳物部中
"	松本和那	鍋掛中
事務局長	篠原俊雄	宇一条中
"次長	上野政司	"陽東中
庶務部長	小川楨三	"泉が丘中
"部員	高柳久	"瑞穂野中
"	赤石沢一明	"豊郷中
"	川島平八郎	"宮の原中
"	谷沢八郎	"横川中
"	谷田部康幸	"晃陽中

庶務部長	飯野昭宇	城山中
会計部長	渡辺大三郎	"星が丘中
"部員	増淵重雄	"困本中
"	森永信雄	"雀宮中
"	栗原和友	"清原中

第26回全日本中学校長会
北海道大会参加者配分

分科会	第一分科会	二	三	四	五	六	七	八	計
研究協議題	新時代に対応する中学校教育課程の改革	中学校教育の役割と家庭・社会教育のあり方	生徒の徳性を高める中学校教育のあり方	中学校教育における週五日制の諸問題対策	中学校教育正常化のための高校入学選抜制度改善	中学校における人的管理の現代化	専門職としての期待される教師像	過疎・過密地域における学校運営と標準法改正	
祖邦当	関東	甲信越	東北	四国	北海道	中国	東北	九州	近畿
本県参加	6	5	5	5	5	3	4	3	36
宇河	1	1	1			1	1		5
上野	1	1	2				2		6
方賀	2							1	3
下野	1		2		1	1	1		6
塩谷	1			1				1	3
那北		2			1	1		1	5
那南			2						2
安足									4
事務局	0			1	1				2

昭和49年度栃木県中学校長会会計決算書

1 収入 1,778,373円
 2 支出 1,619,439円
 3 残額 158,934円

収入内訳

項目	予算額	収入額	比較		摘要
			増	減	
1 会費	1,487,700	1,487,700			8,700円×171
2 繰越金	72,715	72,715			
3 雑収入	213,889	217,958	4,069		利子 その他
計	1,774,304	1,778,373	4,069		

支出内訳

項目	予算額	支出額	比較		摘要
			増	減	
1 会議費	120,000	106,900		13,100	
(1) 総会費	30,000	30,000			総会補助
(2) 会議費	90,000	76,900		13,100	理事協議員会等
2 事務局費	746,000	712,586		33,414	
(1) 事務費	110,000	116,105	6,105		通信費・消耗品等
(2) 事務局職員手当	506,000	493,501		12,499	事務職員給与・手当
(3) 旅費	130,000	102,980		27,020	関プロ全日中旅費 監査
3 事業費	455,000	355,175		99,825	
(1) 研修費	70,000	54,375		15,625	
(2) 刊行費	200,000	115,800		84,200	会員名簿, 教職観, 会報
(3) 専門部費	105,000	105,000			15,000×7
(4) 関プロ準備費	80,000	80,000			関プロ準備
4 分担金	393,300	393,300			
(1) 全日中分担金	307,800	307,800			1,800×171
(2) 関プロ "	85,500	85,500			500×171
5 積立金	25,000	25,000			
(1) 積立金	25,000	25,000			職員退職手当
6 雑費	15,000	12,000		3,000	
(1) 雑費	15,000	12,000		3,000	広告等
7 予備費	20,004	14,478		5,526	
(1) 予備費	20,004	14,478		5,526	
合計	1,774,304	1,619,439	6,105	160,970	比較154,865 減

差引残 158,934円は次年度へ繰越します。 栃木県中学校長会長 戸田 博 亘
 昭和50年3月31日 " 事務局長 浜野 正 重
 " 会計部長 小川 謙 三

監査報告 栃木県中学校長会昭和49年度分会計監査の結果、証憑書類諸帳簿等正確に処理されていることを確認いたします。

昭和50年4月17日 監査 大木 義雄 ⊕
 栗原 光男 ⊕
 大貫 順作 ⊕

昭和50年度栃木県中学校長会会計予算書(案)

1 収入 2,122,934円
 2 支出 2,122,934円

収入内訳

項目	50年度予算額	49年度予算額	比較		摘要
			増	減	
1 会費	1,764,000	1,487,700	276,300		6,500×168 4,000×168
2 繰越金	158,934	72,715	86,219		
3 雑収入	200,000	213,889		13,889	利子 その他
計	2,122,934	1,774,304	348,630		

支出内訳

項目	50年度予算額	49年度予算額	比較		摘要
			増	減	
1 会議費	150,000	120,000	30,000		
(1) 総会費	40,000	30,000	10,000		総会補助
(2) 会議費	110,000	90,000	20,000		理事, 協議員会等
2 事務局費	901,000	746,000	155,000		
(1) 事務費	130,000	110,000	20,000		通信, 消耗品
(2) 事務局職員手当	620,000	506,000	114,000		事務局職員手当
(3) 旅費	151,000	130,000	21,000		
3 事業費	462,000	455,000	7,000		
(1) 研修費	90,000	70,000	20,000		研修費
(2) 刊行費	260,000	200,000	60,000		会報その他印刷
(3) 専門部費	112,000	105,000	7,000		16,000×7
(4) 関プロ栃木大会準備	0	80,000		80,000	
4 分担金	504,000	393,300	110,700		
(1) 全日中分担金	420,000	307,800	112,200		2,500×168
(2) 関プロ "	84,000	85,500		1,500	500×168
5 積立金	28,000	25,000	3,000		
(1) 積立金	28,000	25,000	3,000		
6 雑費	27,000	15,000	12,000		
(1) 雑費	27,000	15,000	12,000		広告・借用料等
7 予備費	50,934	20,004	30,930		
(1) 予備費	50,934	20,004	30,930		
合計	2,122,934	1,774,304	348,630		

昭和50年4月1日

栃木県中学校長会

栃木県中学校長会退会者

○ 退会によるもの(14名)

- | | | | | |
|-----|-----|---|---|------|
| 1. | 戸田博 | 亘 | 字 | 一条中 |
| 2. | 浜野正 | 重 | 字 | 陽西中 |
| 3. | 野沢平 | 吉 | 字 | 陽東中 |
| 4. | 草島尚 | 介 | 字 | 宮の原中 |
| 5. | 巻島武 | 男 | 字 | 横川中 |
| 6. | 高藤常 | 松 | 字 | 城山中 |
| 7. | 石川富 | 寿 | 上 | 鹿沼北中 |
| 8. | 荒川正 | 一 | 下 | 壬生中 |
| 9. | 金田正 | 三 | 〃 | 国分寺中 |
| 10. | 平野英 | 男 | 〃 | 藤岡一中 |

- | | | | | |
|-----|-----|----|-----|------|
| 11. | 岩崎好 | 男 | 佐野 | 吾妻中 |
| 12. | 大滝徳 | 海 | 足利 | 足利二中 |
| 13. | 中野滋 | 下 | 桑中 | |
| 14. | 大貫一 | 那須 | 黒磯中 | |

○ 転出によるもの(小学校へ)(6名)

- | | | | | | |
|----|-----|---|---|------|-----|
| 1. | 赤羽根 | 雄 | 太 | 上 | 西川中 |
| 2. | 江口栄 | 一 | 下 | 静和中 | |
| 3. | 河部理 | 足 | 三 | 中 | |
| 4. | 手塚昌 | 郎 | 塩 | 新高原中 | |
| 5. | 桜岡龍 | 三 | 那 | 高林中 | |
| 6. | 人見芳 | 正 | 塩 | 箒根中 | |

栃木県中学校長会永年勤続表彰者

5年勤続(12名)

- | | | | | | |
|-----|------|---|---|---|----|
| 1. | 陽東中 | 上 | 野 | 政 | 司 |
| 2. | 星が丘中 | 渡 | 辺 | 大 | 三郎 |
| 3. | 日光中 | 星 | 野 | 聰 | 郎 |
| 4. | 大沢中 | 大 | 房 | | 仁 |
| 5. | 豊岡中 | 沼 | 尾 | | 陸 |
| 6. | 日光東中 | 桑 | 島 | 得 | 二 |
| 7. | 田野中 | 大 | 山 | | 進 |
| 8. | 須藤中 | 永 | 島 | 光 | 男 |
| 9. | 絹中 | 大 | 貫 | | 昇 |
| 10. | 美田中 | 諸 | 沢 | 鶴 | 夫 |
| 11. | 協和中 | 国 | 井 | 未 | 子 |
| 12. | 愛宕台中 | 蓮 | 沼 | 恒 | 八 |

- | | | | | |
|-----|-------|---|---|---|
| 11. | 城東中 | 小 | 高 | 博 |
| 12. | 田沼西中 | 藤 | 掛 | 一 |
| 13. | 船生中 | 和 | 氣 | 夫 |
| 14. | 阿久津中 | 小 | 池 | 夫 |
| 15. | 北高根沢中 | 菅 | 又 | 典 |
| 16. | 野崎中 | 佐 | 藤 | 二 |
| 17. | 芳賀中 | 築 | 政 | 治 |
| 18. | 大平中 | 鈴 | 木 | 一 |

15年勤続(2名)

- | | | | | | |
|----|------|---|---|---|---|
| 1. | 鹿沼東中 | 愛 | 波 | 正 | 雄 |
| 2. | 鍋掛中 | 松 | 本 | | 和 |

20年勤続(4名)

- | | | | | | |
|----|------|---|---|---|----|
| 1. | 上河内中 | 増 | 淵 | 益 | 三 |
| 2. | 茂木中 | 岩 | 崎 | 正 | 三郎 |
| 3. | 吹上中 | 大 | 木 | 義 | 雄 |
| 4. | 佐野北中 | 飯 | 塚 | 栄 | 四郎 |

25年勤続(1名)

- | | | | | | |
|----|------|---|---|---|---|
| 1. | 下江川中 | 佐 | 藤 | 喜 | 平 |
|----|------|---|---|---|---|

10年勤続(18名)

- | | | | | | |
|-----|------|---|---|---|---|
| 1. | 藤原中 | 野 | 沢 | 芳 | 雄 |
| 2. | 七井中 | 橋 | 本 | 久 | 郎 |
| 3. | 市貝中 | 秋 | 山 | | 武 |
| 4. | 小山二中 | 長 | 浜 | | 精 |
| 5. | 間々田中 | 館 | 野 | 竹 | 男 |
| 6. | 荒川中 | 清 | 水 | 才 | 治 |
| 7. | 境中 | 山 | 口 | 正 | 尚 |
| 8. | 七合中 | 大 | 野 | 豊 | 寿 |
| 9. | 馬頭中 | 星 | | | 博 |
| 10. | 大山田中 | 高 | 野 | 末 | 吉 |

専門部員

調査部

- | | | | |
|----------|---|---|---|
| 瑞穂野中(字) | 高 | 柳 | 久 |
| 南河内中(河) | 塚 | 原 | 茂 |
| 粟野中(上) | 田 | 村 | 政 |
| 久下田中(芳) | 仲 | 島 | 信 |
| 栃木西中(栃) | 森 | 田 | 守 |
| 間々田中(小) | 館 | 野 | 竹 |
| 藤岡一中(下) | 徳 | 田 | 代 |
| 北高根沢中(塩) | 菅 | 又 | 隆 |
| 大島中(那北) | 手 | 塚 | 賢 |
| 大内中(那南) | 青 | 柳 | 勇 |
| 城東中(佐) | 小 | 高 | 博 |
| 田沼西中(安) | 藤 | 掛 | 良 |
| 愛宕台中(足) | 蓮 | 沼 | 恒 |
| 足尾中(足尾) | 谷 | 口 | 寅 |

研修部

- | | | | |
|----------|---|---|---|
| 宮の原中(字) | 川 | 島 | 平 |
| 上河内中(河) | 増 | 淵 | 益 |
| 藤原中(上) | 野 | 沢 | 芳 |
| 市貝中(芳) | 秋 | 山 | 武 |
| 栃木東中(栃) | 白 | 井 | 弘 |
| 小山第二中(小) | 長 | 浜 | 精 |
| 都賀中(下) | 平 | 岡 | 芳 |
| 片岡中(塩) | 兼 | 崎 | 才 |
| 金田南中(那北) | 菊 | 地 | 文 |
| 馬頭中(那南) | 星 | | 博 |
| 吾妻中(佐) | 野 | 城 | 博 |
| 葛生中(安) | 村 | 堰 | 清 |
| 毛野中(足) | 長 | 谷 | 川 |

編纂部

- | | | | |
|---------|---|---|---|
| 姿川中(字) | 小 | 林 | 茂 |
| 田原中(河) | 金 | 田 | 悟 |
| 日光東中(上) | 桑 | 島 | 得 |
| 逆川中(芳) | 町 | 井 | 勝 |

- | | | | |
|---------|---|---|---|
| 東陽中(栃) | 荒 | 井 | 力 |
| 絹中(小) | 大 | 貫 | 昇 |
| 南犬飼中(下) | 石 | 川 | 太 |
| 玉生中(塩) | 太 | 田 | 友 |
| 芦野中(那北) | 波 | 井 | 敏 |
| 七合中(那南) | 大 | 野 | 豊 |
| 佐野南中(佐) | 鹿 | 沼 | 隆 |
| 葛生中(安) | 村 | 堰 | 清 |
| 協和中(足) | 国 | 井 | 末 |

職員対策部

- | | | | |
|----------|---|---|---|
| 旭中(字) | 鈴 | 木 | 信 |
| 古里中(河) | 大 | 谷 | 晃 |
| 西方中(上) | 渡 | 辺 | 太 |
| 中村中(芳) | 榎 | 戸 | 隆 |
| 皆川中(栃) | 米 | 山 | 滋 |
| 美田中(小) | 緒 | 沢 | 鶴 |
| 藤岡第二中(下) | 籙 | 田 | 新 |
| 塩原中(塩) | 菊 | 地 | 武 |
| 野崎中(那北) | 佐 | 藤 | 政 |
| 荒川中(那南) | 清 | 水 | 才 |
| 佐野西中(佐) | 刑 | 部 | 正 |
| 田沼西中(安) | 藤 | 掛 | 良 |
| 北郷中(足) | 前 | 原 | 秀 |

修学旅行部

- | | | | |
|---------|---|---|---|
| 陽西中(字) | 伊 | 藤 | 守 |
| 明治中(河) | 山 | 崎 | 勝 |
| 鹿沼北中(上) | 栗 | 原 | 光 |
| 真岡中(芳) | 菅 | 谷 | 重 |
| 栃木南中(栃) | 橋 | 川 | 均 |
| 桑中(小) | 山 | 中 | 福 |
| 国分寺中(下) | 碓 | 井 | 青 |
| 船生中(塩) | 和 | 氣 | 政 |
| 黒羽中(那北) | 金 | 沢 | 久 |
| 境中(那南) | 山 | 口 | 正 |

佐野南中（佐） 鹿 沼 隆重郎
 常盤中（安） 神 山 邦 夫
 坂西中（足） 大 島 広 雄

福利厚生部

陽南中（宇） 小 池 元 正
 上三川中（河） 上 野 逸 郎
 日向中（上） 洞 口 善 勝
 中川中（芳） 関 興 興
 寺尾中（栃） 大 塚 清 清
 豊田中（小） 平 野 勇 勇
 壬生中（下） 猪 野 富 夫
 上江川中（塩） 津 浦 敏 恵
 高林中（那北） 星 忠 直
 大山田中（那南） 高 野 末 吉
 佐野北中（佐） 飯 塚 栄四郎
 常盤中（安） 神 山 邦 夫

山 辺 中（足） 小 林 俊 茂

進路対策部

一 条 中（宇） 篠 原 俊 雄
 本 郷 中（河） 荒 川 正 男
 北押原中（上） 平 沢 勉 勉
 山 前 中（芳） 横 田 正 一
 栃木西中（栃） 森 田 守 一
 大 谷 中（小） 筑 後 清 寿
 野 木 中（下） 飯 田 弘 弘
 泉 中（塩） 五 月 女 正 男
 三 島 中（那北） 室 井 古 穂
 烏 山 中（那南） 三 尾 谷 寛
 赤 見 中（佐） 小 竹 正 美
 田沼東中（安） 柿 沼 政 一
 足利二中（足） 中 村 治 夫

栃木県中学校長会規約

第1章 名称及事務所

第1条 本会は、栃木県中学校長会と称する。

第2条 本会は、事務所を会長の指定するところにおく。

第2章 目的及事業

第3条 本会は、中学校教育の振興を図ることを目的とする。

第4条 本会は、前条の目的を達成するために、左の事業を行なう。

1. 中学校教育の調査研究
2. 教育振興に関する運動
3. その他、必要なる事項

第3章 組織

第5条 本会は県下中学校長をも

って組織する。

第4章 役員

第6条 本会に左の役員を置く。

会 長 1 名
 副会長 4 名
 理 事 若干名
 協議員 若干名
 監 事 3 名

第7条 前条の役員の任務は、左の通りとする。

1. 会長は、本会を代表して会務を統括する。
1. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代行する。
1. 理事は、理事会協議会に出

席し会務の運営にあたる。

1. 協議員は、協議会に出席し会務を審議する。
1. 監事は会計事務の監査にあたる。

第8条 役員は、左の方法で選出する。

1. 会長、副会長、監事は、協議員会で推薦し総会で承認する。
2. 理事は、各郡市中学校長会長及び事務局長、事務局各部長、各専門部長をあてる。
3. 協議員は、四校につき1名の割合で各郡市中学校長会が互選する。

第9条 役員任期は1か年とし再任を妨げない。但し補欠役員任期はその残任期間とする。

第5章 会 議

第10条 本会の会議は、左の通りとし会長が招集する。

1. 総会（定期総会は毎年5月に行なう。）
1. 協議員会
1. 理事会

第11条 前条会議の任務は、左の通りとする。

1. 総会は、本会の最高決議機関で事業計画、予算決算その他重要事項を議決する。
2. 協議員会は、総会に次ぎ決議機関で必要事項について審議する。
3. 理事会は、総会、協議員会で決議された方針に従い会務を執行する。

第12条 すべての会議は定員の過半数で成立し、議決は出席者の多数決による。

第6章 事務局・専門部

第13条 本会は第4条の事業を行なうため左の事務局・専門部を置く。

1. 事務局は庶務・会計部を置く。
2. 専門部は調査・研修・編集職員対策・進路対策・修学旅行・福利厚生とする。

第14条 事務局には局長、部には部長若干名を置き、左の方法で選出する。

1. 事務局員は、会長の委嘱による。
2. 編集部は、各部の代表をあてる。
3. その他の部は、理事会にかり会長がこれを委嘱する。

第15条 事務局には局長、次長各役員を、専門部には部員の互選により正副部長を置く。

第7章 会 計

第16条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもって当てる。

第17条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

付 則

第18条 規約の改正は、総会の決議により運営に必要な細則は協議員会で定める。

第19条 本規約は、本会が設立された昭和20年12月12日から施行する。

昭和38年5月 4日改正
 昭和43年5月 日改正
 昭和44年5月 日改正
 昭和48年5月12日改正

栃木県小中学校長連帯会規定

第1条 この会は栃木県小中学校長連帯会といい、事務所を会長所在の学校に置く。

第2条 この会は栃木県小学校長会会員、栃木県中学校長会会員をもって組織する。

第3条 この会は一定の会費によって、会員相互の共栄互助をはかることを目的とする。

第4条 この会の目的を達成するため次のことを行なう。

1. 会員が退会したときは、金別金10,000円を贈る。
2. 会員が死亡したときは、弔慰金100,000円と花輪1基（時価相等）を贈る。

3. 会員が1か月以上に亘る傷病休暇の場合は、見舞金5,000円を贈る。
4. 会員の配偶者が死亡した場合は弔慰金10,000円を贈る。
5. 会員の永年勤続者の表彰を行なう。（表彰内規は別に定める）
6. 県以上の表彰を受けた場合には記念品（3,000円程度）を贈る。
7. その他必要ある場合は協議の上措置する。

第5条 この会に次の役員をおく。役員任期は1か年とする。

1. 会 長 1 名
2. 副会長 1 名

3. 理 事 若干名
4. 評議員 若干名
5. 庶務・会計 4 名
6. 会計監査 4 名

第6条 会費は会員1人当たり2,000円とする。

第7条 会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第8条 この規定の改正は評議員会によって議定し、各校長の承認を得るものとする。

第9条 この会の運営は次のとおり定める。

1. 会務は小中学校1年交替であたる。
2. 会長、副会長は、小中学校長会長が1年交替で

- あたる。
- 3 理事は、小中学校校長会の理事があたる。
 - 4 評議員は小学校校長会の評議員と中学校校長会の協議員があたる。
 - 5 庶務会計は、会務担当の校長会より選出する。
 - 6 会計監査は、小中学校校長会の監査員があたる。

付 則

- 1 この規定は昭和38年1月1日より施行する。
 - 2 昭和41年4月1日一部改正
 - 3 昭和48年4月1日一部改正
- 第4条表彰内規
- 1 勤続5年、10年、15年、20、25年目に達

した場合

- 2 小中校の勤続は通算する。
- 3 会員から教育関係の他の職に転じた場合の期間は通算し、会員に復した後に表彰する。
- 4 記念品代は当分の間1,500円程度とする。
- 5 表彰状・筒は各小中学校校長会に負担する。

関プロ中学校長研究協議会協議題（栃木）

昭和50年6月19日～21日

・ 研究議題

(1) 全体会

「ひとりひとりが豊かに伸びる中学校教育」に視点をおいて、その現状の把握と改善案の策定

将来への展望に立つ中学校教育の使命

（提案・・・栃木・神奈川・新潟）

(2) 分科会

分科会	協 議 題	提 案	司 会
第1分科会	現行教育課程の問題点とその改善策はいかにあるべきか	埼玉 栃木	埼玉 栃木
第2分科会	4年制中学校の構想にたつ教育課程はいかにあるべきか。	東京 栃木	東京 栃木
第3分科会	学校教育活動の充実を期するための条件整備はいかにあるべきか。	群馬 栃木	群馬 栃木
第4分科会	中学校教育の役割と家庭教育・社会教育との連携はいかにあるべきか。	長野 栃木	長野 栃木
第5分科会	現代化をふまえた、ゆとりある学校経営はいかにあるべきか。	新潟 栃木	新潟 栃木
第6分科会	現代社会における中学校の生徒指導はいかにあるべきか。	茨城 栃木	茨城 栃木
第7分科会	ひとりひとりを生かす進路指導と高校入試制度の改善をどう進めたらよいか。	千葉 栃木	千葉 栃木
第8分科会	学校週5日制の問題点とその対策はいかにあるべきか。	神奈川 栃木	神奈川 栃木
第9分科会	専門職として期待される教師と、その研修ならびに制度はいかにあるべきか。	山梨 栃木	山梨 栃木